

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 040 号

2017 年 11 月 30 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

はちのへ大会 成功裏に終了 小倉大会長、本当にお疲れさまでした。

『第 39 回 全国の集い in はちのへ 2017』が成功裏に終了いたしました。

約 1,000 名の参加があり、市民公開講座など地元向けのセッションばかりでなく、会場の中央に位置する市役所前の市民広場には昼休みにバトントワリングなどの各種アトラクションも開催され、まさに「市と一体になったイベント」という印象を強く感じました。

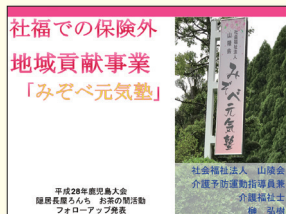


『フォローアップ推薦』

在宅生活の継続

榎 弘樹

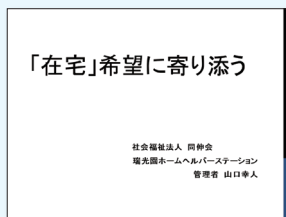
地域の高齢者がより元気に過ごしていけるように、自らの事業所だけではなく、地域のリタイアした人材を有効に活用している新しい試みを、徐々に進化させている所も素晴らしい。



在宅生活の継続

山口 幸人

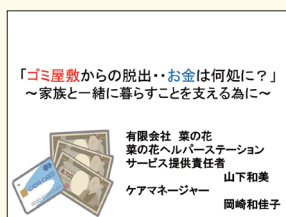
24時間のサービス提供を地域の協力事業所と構築している。更に地域に浸透させていく経過を報告してほしい。



訪問&通所サービス

山下 和美

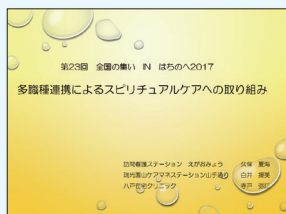
今回の地域共生社会を考える上で、多職種連携に繋がる事例でした。次回に、進展を期待します。



緩和ケアと看取り

久保 夏海

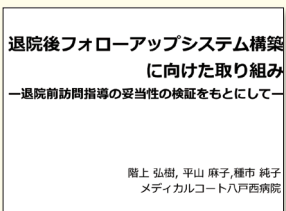
スピリチュアルケアの取り組みをもっと症例かさねて、来年へ報告おねがいします。



人材育成・教育

階上 弘樹

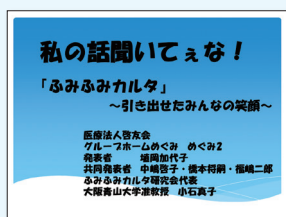
退院後のフォローアップのシステム構築について、今後医療、介護の連携で、ケアマネ等も含めてチーム作りで在宅ケアに貢献していただきたいと思います。



地域で支える認知症ケア

埴岡 加代子

ふみふみカルタをする事で、残存機能が引き出された。発表者の熱意が伝わってきた。



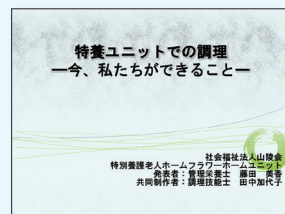
はちのへ大会

今年度の実践交流会は、10 カテゴリー 86 演題が発表され、紹介します。掲載されているコメントは理事座長及び地元

口腔ケアと栄養管理

藤田 美香

去年、今年と見て、次回への取り組みを何を考えていくのか、興味があり、どのような社会への発信となるのか、フォローしてみたい。



これからの地域包括ケア

高 美智代

個別ケア会議から地域ケア会議へのアウトリーチに挑戦。



新しい試み

竹田 靖子

専門的な分析だけにとどまらず、チェック表を作成する等、それを活かしている点に、今後の可能性を感じました。



新しい試み

飯田 友一

「要介護度を下げる介護記録」という記録の本質を突いた点、さらに、事業所にも方針を持たせたことで事業所のレベルアップにも通じる取り組みであり、新たな可能性に期待できます。



薬と生活

根本 昌幸 関 修太

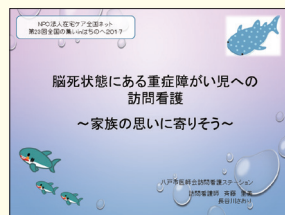
ITC ツールをうまく利用して、多職種が情報共有を容易にしました。今後、もっと活用の幅を期待したい。



障がい者・障がい児ケアについて

斉藤 里美

重度の身体障害者を対象とした在宅医療の支援体制が充分とは言えない地域で、患者さんのご家族からの依頼や地域における需要に応えるべく積極的に活動している。今後は、地元の医師会や総合病院などの医療機関との連携が構築されることと、これまでと同様に患者さんやご家族の視点に立った継続的な医療や介護の提供が行われることを期待する。



実践交流会報告

活発な交流が行われました。その内、優秀賞／フォローアップ推薦に選ばれた22演題を八戸座長の推薦文です。

『優秀賞』



在宅生活の継続

深田 知洋江

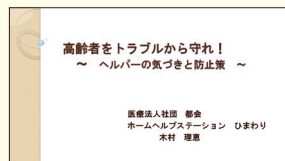
「緊急用シート」という新しいツールを用いて、在宅での看取りを含めて、家族、患者の意思決定を、症例を上げて検証していた点が評価出来た。



訪問&通所サービス

木村 理恵

訪問ヘルパーが、専門的、総合的な視点を持ち高齢者のトラブルを守っている事。またトラブル防止策など具体的な対策を立案されている事。すばらしいチームケアであったと思います。



緩和ケアと看取り

山田 景子

地域密着型施設での看取り、医師、看護師のかかわりが制限される中、家族と共に看とれた報告は、心暖まるものでした。



人材育成・教育

斉藤 忠雄

今後の地域包括ケアの基礎となる体制作りを積極的に行っており、今後の地域社会に大きな影響を与えていると思います。会場への影響も大きく今後に期待できる内容と思いました。



地域で支える認知症ケア

江川 萌美

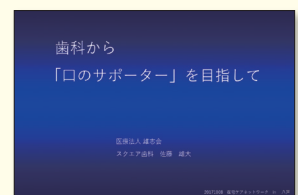
4つの質問を傾聴し、本人の思いをまとめた手紙を家族に送り共有した。傾聴を継続する事で職員の意識が向上した。



口腔ケアと栄養管理

佐藤 雄大

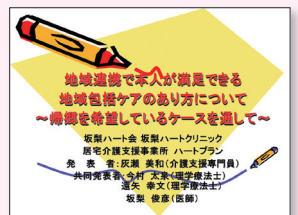
歯科医師が正しく口のサポーターとして、食べるための口づくりで、地域の中で多職種との連携を強化していることは素晴らしい。



これからの地域包括ケア

灰瀬 美和

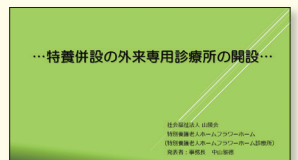
地域の力 (social capital) の重要性を示唆する点で、地域包括ケアの本質に迫る発表であった。



新しい試み

中山 雅徳

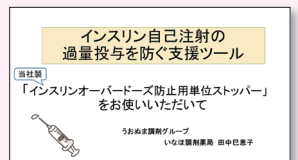
試みの結果が具体的な数字をもって発表いただいた事。一つの事例として他の会員にとって非常に参考になった。



薬と生活

田中 巳恵子

3Dプリンターを用いて作製した画期的ツールといえます。まだ改良の余地はあるものの、今後、いろいろと活用可能と考えます。



障がい者・障がい児ケアについて

寺口 こずえ

多くの苦勞をしながら社会へのつながりを持ちつづけ、障がい者がおちいりやすい甘えの要素を乗り越え、バランスの取れた思考で今の障がい者にとっての問題を的確に当事者の言葉として発表された。



理・事・会・企・画

毎年全国の集いにおいて理事会によるセッションが企画されており、今回は以下の2つを行った。

『地域包括ケア実現のためにいま私たちがすべきこと』

【座 長】

大石 佳能子（株式会社メディヴァ 代表取締役社長）

【シンポジスト】

後藤 友子（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部）

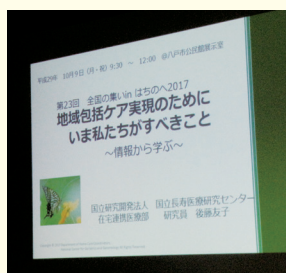
川名 理恵子（横須賀市健康部地域医療推進課）

清水 智子（新潟市保健衛生部地域医療連携課）

村田 耕平（株式会社メディヴァ マネジャー）

シンポジストの方々がそれぞれ「地域の現状」について「きれいごとではないありのままの現状」について語っていただき、道半ばにも満たない現状について様々な問題の提起が行われた。（お二人は地域の行政のご担当者でした）

在宅医療・介護連携推進事業は、平成27年4月の介護保険法改正にて、地域支援事業の包括的支援事業に位置付けられ、平成30年4月にすべての市区町村で実施されることが求められている。しかし、厚生労働省の調査では、多くの自治体において事業案の検討・策定にとどまっていることがわかった。このため、各自治体が抱える在宅医療介護連携推進事業における課題を抽出し、解決策を検討する必要があると考えられた。



地域包括ケア実現にむけて

～自職種の課題を明らかにし、他職種との関係を深化させるために～

【座 長】

桑原 由次（当会理事）

小倉 和也（はちのへファミリークリニック）

午前中開催されたセッションを受けて開催された。

午前中は行政側の視点中心であったが、午後は当会会員（大会参加者）によるグループディスカッションの形式とした。

当会も事業活動として取り組んでおり、この企画は次回の大阪大会まで継続し、何らかの提言まで持ち込むべく継続していきます。

最初という事もあり多少の戸惑いもあり結果として自由討論的なものとなったが、「医師」、「看護師」、「ケアマネ」、「薬剤師」、「その他（行政、関連機関、市民）」に分かれたディスカッションは、それなりの特徴も感じられながら、それでも一つの方向性にフォーカスできるような結果を出せたと感じました。



リレー寄稿

楠元さんは、昨年度鹿児島大会にて吉井大会長の元で事務局を務めました。また、楠元さんの所属する「野の花会」は今年3月に「介護ロボット導入好事例表彰事業」にて応募のあった95施設・団体の中から最優秀賞に選ばれています。その導入の経緯と事例を、この寄稿にて報告しています。



「地域包括ケア…地域の現状」 —鹿児島県—

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
楠元寛之（社会福祉法人 野の花会）



最近、地元南さつま市で50年以上営業していたお店が閉店し、寂しい気持ちになりました。閉店の原因は様々だと思いますが、「住む人が少なくなったからね～」とよく耳にし、南さつま市も過疎化が進んでいると言われています。

日本は、2025年には団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という時代を迎えると言われており、そのようななか、厚生労働省は、2025年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しており、社会保障費の抑制にむけて「施設」から「地域」へ完結できるようシフトしています。しかし、団塊ジュニア世代が50代に突入する2021年には、親の介護が必要になり「介護の為に離職」が多くなると予測されており、国は「介護の為に離職ゼロ」を目指すべく施設整備を進めておりますが、南さつま市では施設が増えた為に、施設入居への待機の方の減少や在宅サービスの利用低下にも繋がっている印象です。

介護人材不足については、2025年には介護職員が約253万人必要になるのに対し、供給の見込みは約215万人で、およそ37.7万人もの人材が不足すると報告されています。その予測に現在働いている介護職員の「介護の為に離職」が進むとますます人材不足は深刻になると思います。

そのような背景のなか野の花会では、移乗動作の負担軽減を目的に介護ロボットスーツHAL®（腰タイプ）や人工知能を搭載しており、感情の起伏もなく感性豊かな表現力と適切な言葉遣いで会話のできるかわいら

しいコミュニケーションロボット「パルロ」で楽しくレクリエーション、ダンス、体操などを行っています。更に、赤外線距離センサーを使った非接触方式で、プライバシーに配慮したシルエット画像の次世代予測型見守りシステムロボ「ネオスケア」を導入し夜勤業務の心理的負担軽減にも務めています。

このように予測される介護人材不足の状況を打開するために、介護ロボットを上手に活用出来るよう取り組んでいます。それ以外に当ネットワークのご協力のもと、スカラシップ制度を利用してフィリピンの学生を3名受け入れており、今後外国人技能実習制度へ移行できればと考えています。

しかし、地域包括ケアの構築に伴い「住み慣れた地域で最期まで」を実現する為の一番の課題は医師との連携です。特に夜間の看取りに関して、状態が悪くなると昼間に入院してしまい、病院で最期を迎えることがまだまだ多い印象で、夜間における「医師の過疎化」は深刻な問題です。

今後、医療も介護もマイナス改定が予測され、新規開設やその予算も厳しくなるなか、過疎化という言葉に惑わされることなく、地域に必要なものをきちんと見極め、戦略を立てて、これまでの概念にとらわれない新しい魅力ある地域作りを行っていかねばならないと感じています。その為に、当ネットワークは、地域に根ざした医師をはじめ、コメディカルの参加が多いのが特徴だと思います。皆様の実践活動を参考にさせていただきたいです。

次回は徳永正義先生にお願いする事になっています。（楠元寛之）

私の こだわり 「今」、「ここ」

岡崎 和佳子
有限会社 菜の花（大阪府大阪市）



◇ 菜の花診療所の事

1988年当時、私は大学病院に勤務する一看護師でした。多くの患者さんの病院での死を経験、身体にいくつもチューブがつけられ、寝返りもできない状態で死を迎える事に違和感を覚えていました。そんな時に「一緒に診療所を創らないか」の声がかかり、素人ばかりで学習会を計画、全国の先進的な診療所を見学に行きました。その中に、畑医師、藤村看護師が経営されていた愛知診療所野並、中嶋ご夫婦で経営、活躍されていた中嶋診療所もありました。勇気をいただき、私たちは1991年に、「診療所設立準備会」を発足、「みんなで創ろうみんなの診療所」を合言葉に出資者を募り、1992年の暮、菜の花診療所は誕生したのです。「そこに行けば何とかなる診療所」「出かける医療」がスローガンでした。

◇ 私は・・・

診療所を開業する半年前に、大学病院を退職。自動車免許をとり、手話を習い、両親を「今後親孝行は出来ない」と最後の旅行へ連れて行き、娘達には「これから母はいない」と告げ、決意しての出発でした。全身全力で突っ走る毎日でしたが、真夜中に自転車で走る自分が好きでもありました。お看取りをした夜の満月、夜明け前の澄んだ空気など五感で感じられる事にも感動を覚えました。その一方で、自分の一生懸命さを他人にも求めてしまいがちになっていました。

今号は、岡崎理事の「こだわり」です。

これまでのご自身の体験や思いを綴った内容となっており、ご自身の「こだわり」であるタイトルの「今」、「ここ」からの前提となっております。この、「こだわり」が大阪大会の重要な背景となっている様です。

◇ 紆余曲折を経て

1994年に名古屋で開催された「ネットワーク結成第1回準備会」にも参加させていただき、「全国の集い」には第一回の東京大会から参加、以来、多くの学びやまた励ましをいただき、診療所の存続危機にも立ち向かう事ができました。万が一の診療所の廃業に備え、2003年には有限会社菜の花を設立しました。おかげさまで、現院長の活躍で2010年に全ての出資金を返却し、2015年に今の診療所に移転することができたのです。

◇ 「今」、「ここ」

2012年、私は菜の花診療所を退職し、有限会社菜の花で介護を中心とした事業を経営しています。会社経営、組織創りは難しいです。以前の「私がやってやる」ではダメという事を実感しています。在宅ケアで最も本音をぶつけられるヘルパーが温かいケアができなければ、治療効果は上げられません。ケア職の最前線をヘルパーとともに歩みたいと思っています。

◇ 大阪大会が目指すもの

これまで、このネットワークの全国大会は著名なまた実力のある先生方が大会長をされて来られました。私が担う事は、お門違いかもしれませんが。私は強いリーダーではなく、悩みながら、一緒に創りあげる小さな存在です。この大会を通じて、つぶれない、つぶさないネットワーク創りをめざしています。地域共生社会の構築には、違いを認め合える事が必要です。地域創りは人創り。出ていない事の批判ではなく、どうしたらできるようになるか、何が自分にできるのか、「今」、「ここ」から歩みたいと思っています。より多くの方に出会い、意見交換し、育みあい、大阪大会を迎えたいです。全国の会員みな様、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

総会及び理事会報告

2017年度 第16回通常総会

全国の集いに合わせ 10 月 9 日に第 16 回通常総会が開催されました。

主な事業計画は以下の通りで。

- 全国大会、プレ大会
- 海外スカラーシップ支援事業
- 情報発信事業
- 地域包括ケア、先進自治体の調査・研究事業
- 会議用 WEB 会議室整備事業
- 書籍発行事業



なお、今年度は役員改正の年にあたり、役員（理事、監査）の新体制が承認されました。

新 理 事：中嶋 久矩氏、三嶋 泰之氏、

退任理事：井村 隆氏、草場 鉄舟氏、小林 るつ子氏、永井 康則氏、藤村 淳子氏、吉井 敦子氏

監 事：黒岩 海映氏（再任）、藤村 淳子氏（新任）、中島 久矩氏（退任）

2017年度 第1回理事会

開催日時：2017 年 10 月 9 日（月・祝） 8：30 ～ 9：30

開催場所：八戸市公民館 第3会場 講義室

出席理事：青木 佳之、秋山 由美子、石田 一美、井村 隆、苛原 実、大石 佳能子、大川 延也、大澤 誠、岡崎 和佳子、小倉 和也、金井 秀樹、黒岩 卓夫、桑原 由次、小山 亨、長 純一、中嶋 啓子、長縄 伸幸、西嶋 公子、萩田 均司、畑 恒土、福田 善晴、藤村 淳子、村山 善紀、吉井 敦子、吉永 隆行
中嶋 久矩（監事）

（敬称略）

欠席理事：太田 秀樹、沖倉 紅児、金田 弘子、草場 鉄周、多湖 光宗、新田 國夫、宮坂 圭一、森本 益雄

（敬称略）

総会の終了後、引き続き開催された理事会において、今後 2 年間の役員として、

会 長 苛原 実氏（再任）

副会長 大澤 誠氏（再任）、岡崎 和佳子氏（新任）、小倉 和也氏（新任）

が選出されました。



はちのへ大会から 大阪大会へ



第24回全国の集いin Osaka 2018

第1回実行委員会

9月9日に第1回実行委員会が開催されました。
その際、各役員が選出されました。

実行委員会一覧（敬称略）

- ・名誉会長 中島 啓子
- ・大会長 岡崎 和佳子
- ・副大会長 川合 秀治 李 利彦
- ・実行委員長 洪 東基
- ・事務局長 西原 民徹
- ・監事 長畑 卓治 渡辺 真紀子

第2回実行委員会

11月11日、東成区民センターにて第2回大阪大会の実行委員会が行われました。大阪大会事務局は総務、プログラム、運営、実践交流会、広報、展示、財務、接遇の8部門を持ち、それぞれの部門で打合せをした後、実行委員会にて報告が行われました。
次の開催は1月27日を予定しています。



第25回全国の集い in 東京 2019 第1回準備会開催

平成29年11月18日、東京大会の準備会が開催されました。



活動予定

- 第2回理事会
平成29年12月10日
場所…東京
大阪プレ大会
（大阪地域医療ケア研究会）
平成30年1月19日
場所…大阪
第三回理事会
平成30年3月4日
場所…東京
第四回理事会
平成30年5月2日
場所…東京
大阪プレ大会
（大阪地域医療ケア研究会）
平成30年6月中旬
場所…大阪
第五回理事会
平成30年8月2日
場所…東京
大阪プレ大会
（東京大会）
平成30年8月下旬
場所…東京

高知北在宅医療介護ネットワーク 講演会が開催されました。

日時：平成29年11月18日（土）
18:30～20:00

場所：保健福祉センター1階検診講習室

【製品紹介】

ルネスタの情報提供

【特別講演】

『みんなが住みやすい地域社会を目指して』
～認知症になっても地域で暮らせるために～
〈講師〉岡崎和佳子

【意見交換】

岡崎様とご参加の皆様とのディス
カッション。

風の萌

2017年11月30日発行（第040号）

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人（NPO）
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0049 愛知県名古屋市天白区福池2-330-2 あいち診療所野並内

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

はちのへ大会も終わり、大阪大会の準備がスタートしました。

今年もあと僅かとなりました。来年も良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

（東京事務局／犬童）